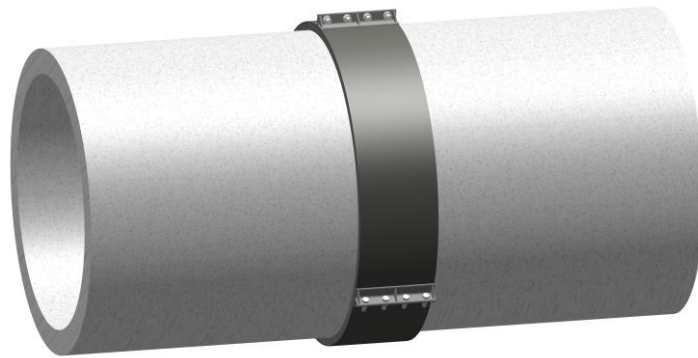


耐震可とう継手取付説明書

BPJ(管と管の継手)



平成27年4月



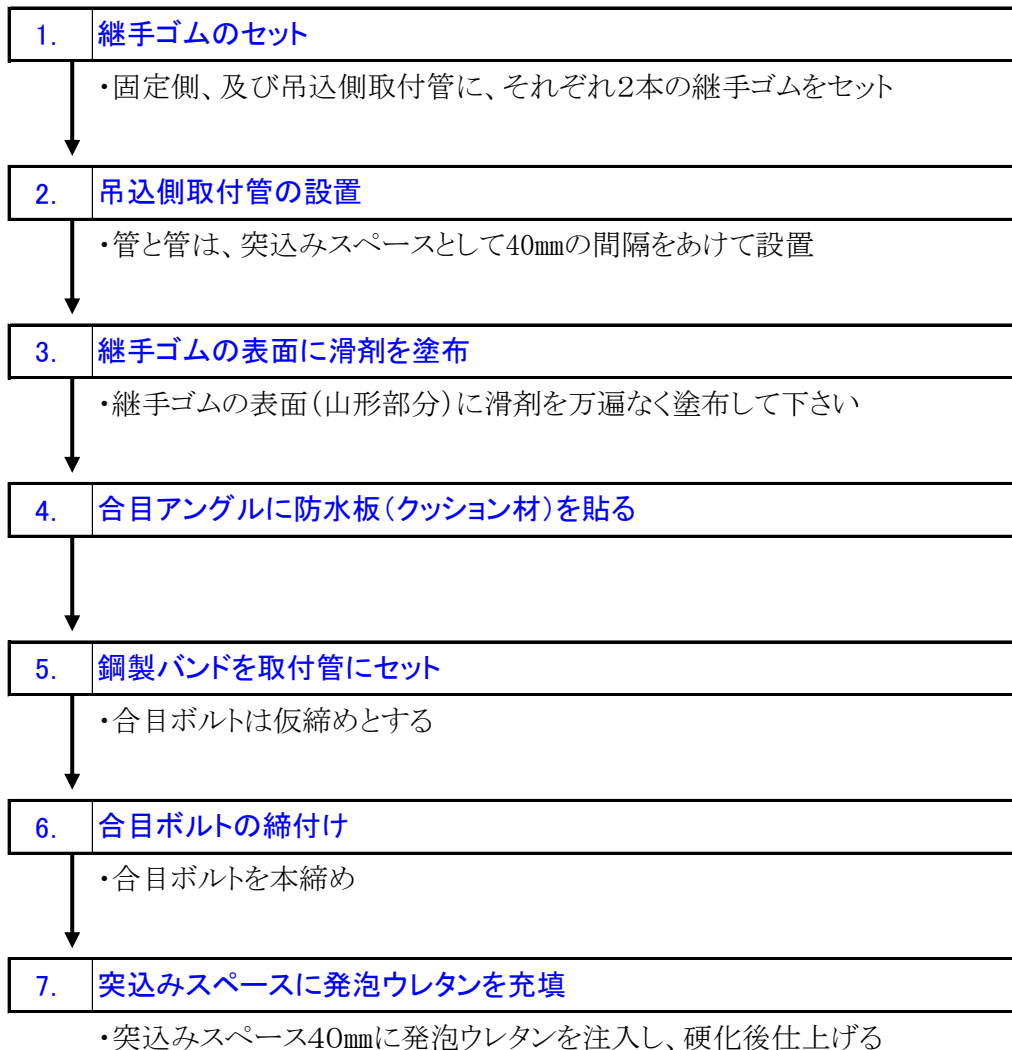
帝国ヒューム管東日本株式会社

管－管用耐震可とう継手 ”BPJ” 取付フローチャート

【準備】

1.	継手部材、及び副資材の確認
2.	工具類の準備

【取付】



管—管用耐震可とう継手”BPJ”（取付管径800mm以上）の取付要領について説明します。

【 準備編 】

1. BPJ部材

- ① 3分割鋼製バンド --- 1組
- ③ 継手ゴム(KTマンホールジョイント) --- 4本
- ④ 副資材 --- それぞれの必要数量は、管種、及び管径によって異なります。
 - ・発泡ウレタン --- 1液スプレー式、2液混合式
 - ・滑剤 --- ヒューム管用
 - ・防水板(クッション材)3枚



2. 準備していただく工具類

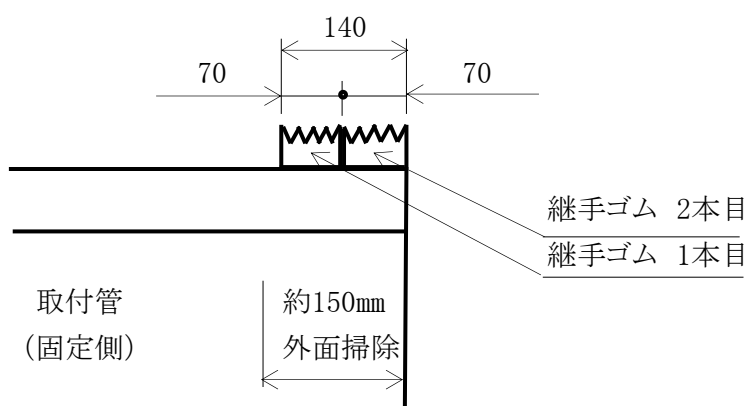
- ① ラチェットレンチ
 - ・取付管がφ1500以下のサイズ・・・24
 - ・取付管がφ1650以上のサイズ・・・27
 - ② メガネレンチ(ラチェットレンチと同サイズ)
 - ③ カッター
 - ④ 刷毛(ウエスでも可)
 - ⑤ ガムテープ
 - ⑥ バール
- ※ 電動インパクト(ソケットはラチェットレンチと同サイズ)を併用すると、作業効率をアップできます。



【 取付編 】

1. 継手ゴム(KTマンホールジョイント)のセット

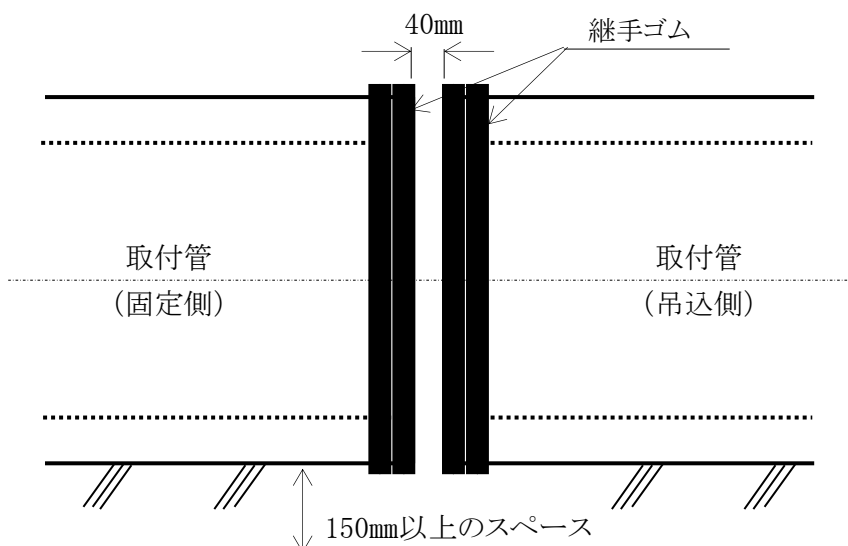
- ① 取付管の継手ゴム装着部を点検、及び掃除して下さい。
 - ・取付側端部、及び管端から約150mmの外面に、欠け、はがれ、ひび、凹凸、などの有害部分が無いことを確認して下さい。汚れがある場合はケレン等で掃除して下さい。
- ② 固定側取付管に、1本目の継手ゴムをはめ込みます。山形を外側に向けて下さい。
 - ・1本目の継手ゴムは、管端より70mmの位置にセットします。
- ③ 固定側取付管に、2本目の継手ゴムをはめ込みます。
 - ・2本の継手ゴムは、管端から並べ、ゴムとゴムの間は隙間無くセットして下さい。
- ④ 吊込側取付管にも同様に2本の継手ゴムをはめ込みセットします。
 - ※ 継手ゴムを管にはめ込む際、滑剤は使用しないで下さい。



2. 吊込側取付管の設置

吊込側取付管を所定の位置に設置します。

- ・管と管は、突込みスペースとして40mmの間隔をあけて設置して下さい。
- ・管と管は、できるだけ水平方向、及び垂直方向のずれがないよう設置して下さい。
- ・管継手部には、埋戻し後に不同沈下が発生しないよう管をしっかり固定して下さい。
- ・管下150mm以上の取付作業スペースを確保して下さい。



3. 継手ゴムの表面に滑剤を塗布

継手ゴムの表面(山形部分)に滑剤を万遍なく塗布して下さい。

3分割鋼製バンドと継手ゴムの滑りを良くして、ゴムを均等に締付けるために非常に重要です。必ず塗って下さい。

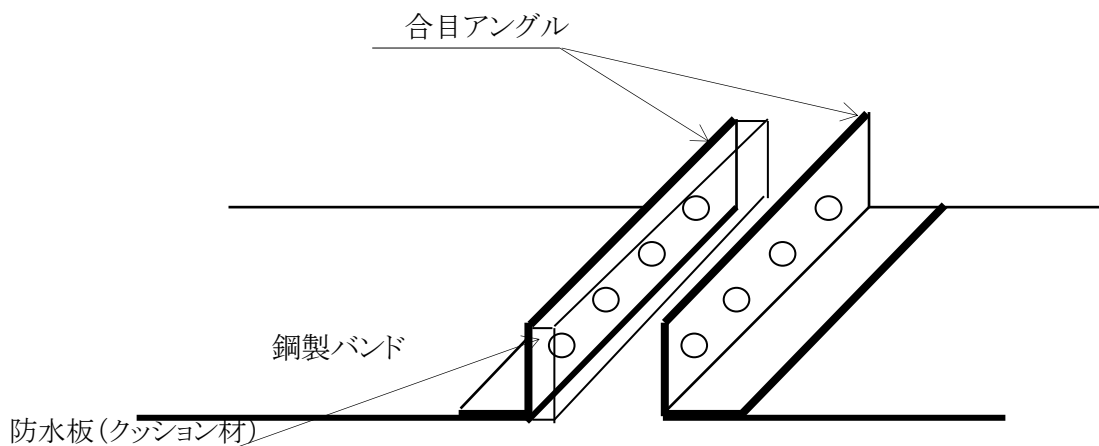


継手ゴムに滑材を塗布

4. 合目アングルに防水板(クッション材)を貼る

① 3分割鋼製バンドの合目部において、写真のように予め、止水板を貼り付けてください。

・止水板はボルト穴に合わせ、正確に貼り付けてください。



5. 鋼製バンドを取付管にセット

管に取付ける前に、3分割鋼製バンドの合目ボルトを外して分解して下さい。

ボルトを外して分解した3分割鋼製バンドを1辺ずつセットしていきます。

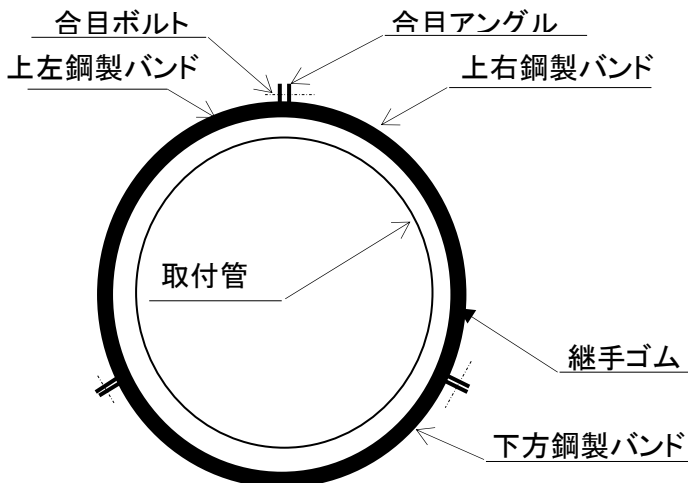
3分割鋼製バンドの3辺は同一仕様ですが、大径用のものは重量が重く、吊り用の金具の位置の関係から上下があります。作業時注意して下さい。

- ① 合目アングルが頂点にくるように片方の1辺(上右)をセットします。
- ② 合目アングルが頂点にくるようにもう片方の1辺(上左)をセットし、頂点の合目ボルトを取付けます。
・標準型では左右の違いはありませんが、各部材の合マークを合わせて下さい。
- ③ 下方の1辺をセットし、左右2箇所合目ボルトを取付けます。

※ この際、合目ボルトは仮締めにしておいて下さい。

また、合目はアングルが平行に近い間隙になるよう平均して締めて下さい。

- ④ 3辺の仮締めができれば、バンドの片寄り等チェックし、あれば修正して下さい。

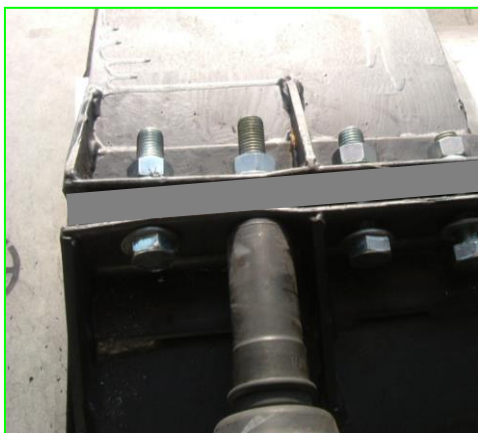


6. 合目ボルト締め付け

※ 電動インパクトを使用すると、より効率的です。

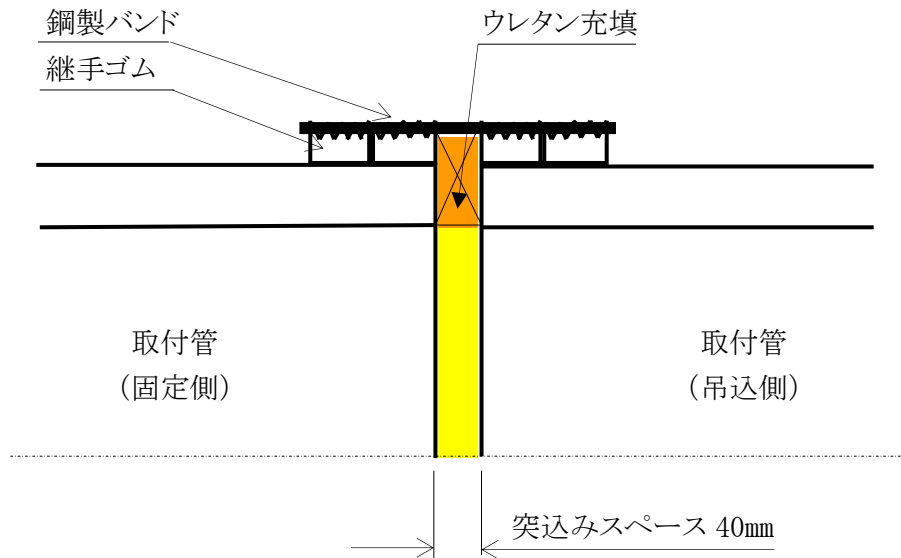
ただし、電動インパクト使用時は、1本を一気に締め過ぎると、アングルの大きな変形の原因にもなり、合目が十分締めきらない部分ができることがあるので、注意して徐々に締めて下さい。

- ・合目ボルトの締め付けは、アングル面がほぼ接するまで行って下さい。
- ・合目の複数のボルトにおいては、1本のみが締めきっても、隣のボルトが十分に締めきっていない場合がありますので、全部が十分締めまっていることを確認して下さい。
- ・アングル部に貼ってある、防水板20mmが5mm程度につぶされるまで十分にボルトを締めてください。



7. 突込みスペースに発泡ウレタンを充填

- ① 管の内側から、突込みスペース40mmの間隙に発泡ウレタンを充填します。
 - ・発泡ウレタンの充填量は膨張することを考慮して、管内面から1cm程度までで結構です。
 - ・2液性発泡ウレタンは、気温によって差異はありますが、充填してすぐに膨張し硬化します。
- ※ 発泡ウレタンの容器は、使用する前に1分程度よく振ってから使用して下さい。また、発泡ウレタンは缶に書いてある注意事項を守って使用して下さい。



- ・上部に充填する場合は、ガムテープやベニヤ板を型枠にして充填すると垂れがなくて作業できます。

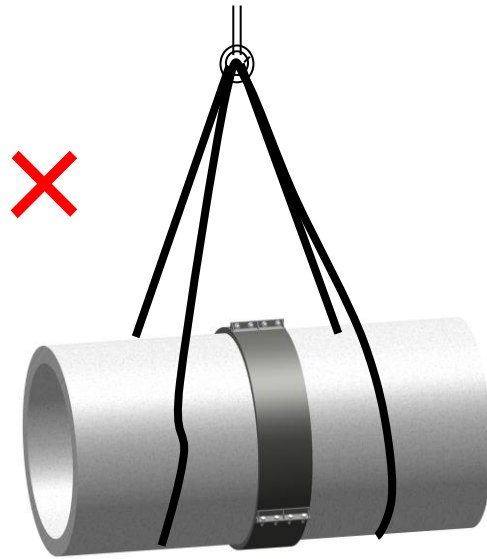


ガムテープを使用しての上部充填状況

- ② ウレタンが硬化した後、内面にはみ出した部分をカッター等で取り取って仕上げして下さい。
 - ・突込みスペース部の内面をモルタル仕上げをする場合は、モルタル施工代分を考慮して取り取って下さい。

管布設の注意点

① BPJを付けたままの管を吊ることは危険ですので絶対にやらないでください。



② BPJは柔軟性がありますので、管本体が下がったり、ずれたりすると可動してしまいます。BPJ部は安定した基礎構造としてください。

埋め戻しはBPJ(継手)に重大な衝撃を与えないように、出来るだけ入念に行ってください。

